

チャ「芽枯れ症」に関する研究(第 4 報)

現地茶園におけるチャ「芽枯れ症」の発生実態  
と水酸化第 2 銅水和剤散布による発生防止

矢野清・常包一明・安部秀雄

現地茶園におけるチャ「芽枯れ症」の発生実態を 1985 年に、水酸化第 2 銅水和剤散布による発生防止効果を 1986 年に検討した。

1. 1985 年には「葉先枯れ」発生葉率は一、二及び三番茶それぞれ 60,90 及び 30%と「芽枯れ症」は激発の状態であった。一、二及び三番茶の Cu 含有率は 4ppm と Cu 欠乏の状態、N あるいは P 含有率が高かった。
2. 1986 年には水酸化第 2 銅水和剤の数回の散布により一及び二番茶の「葉先枯れ」葉の発生は皆無となった。またそれらの Cu 含有率は前年に比べて顕著に高まった。
3. 以上のことから、現地茶園においてもチャ「芽枯れ症」が Cu 欠乏症であり、銅水和剤の散布がその発生防止に有効なことが立証された。